

神奈川県横浜市

地域貢献を強力なリーダーシップで実現 障がい者とともに、めっき業界をリード

自動車部品を中心とする亜鉛めっき、カチオン電着塗装、バレル研磨など金属表面処理メーカーとして幅広い分野の処理加工を得意とする。1954年に創業、現在は横浜市の本社と横浜工場、福島工場を操業している。社員の半数は障がい者で、雇用歴も60年と、障がい者雇用にも大きく貢献している。また、災害対策にも力を入れており、神奈川県メッキ工業組合の同業社と災害時における相互支援契約を締結し、BCP対策にも力を入れている。

●所在地	神奈川県横浜市保土ヶ谷区今井町1125	●設立	1963年
●電話/FAX	045-351-1121/045-351-1105	●資本金	4,100万円
●URL	http://www.daikyo-inc.co.jp/index.html	●従業員数	57人
●代表者	代表取締役会長 栗原 敏郎		



他社に先駆けた複合防錆処理（安価で高耐食性の製品開発）

高防錆処理に特化し、自社で亜鉛めっきの上に電着塗装を行い、高耐食性製品を量産する技術を有する。処理方法の違う「めっき」と「電着塗装」単独の処理では得られない高防錆性をカーメーカーから求められ、試行錯誤の結果、自社で行っている鍍金に、電着を行うことにより安価な高耐食性製品を提供できるようにした。この加工品は45年を過ぎた現在でも採用されている。



高耐食性製品を量産する技術

従業員の半数以上が障がい者、働きやすい環境作りで戦力に

60年以上前から障がい者雇用に積極的に取り組み、今や従業員の半数以上を占める障がい者を戦力として育てている。仕事をするうえでの障害を取り除くことが、障がい者を雇用するうえで重要である。そのため、道具や治具を開発し、ラインにも工夫を施すことで、作業の単純化をはかって自動化を実現させた。例えば、300度の加熱炉を使用していた樹脂コーティングのラインでは、高周波を利用したラインを開発し、暑く過酷なラインでの作業をなくすことに成功した。



社員が働きやすい環境づくり

災害時に遠隔地の企業と相互に助け合う地域連携を実現

災害発生時にお互いの業務を助け合える協力体制を作るため、横浜市内の同業他社と事業継続計画の契約を締結。また、同じ地域の企業同士だけではなく、神奈川県メッキ工業組合と新潟県鍍金工業組合との間で災害支援協定を結び、広いエリアでのバックアップ体制を構築した。これにより、有事の際の資材の提供や人材の派遣などを離れた地域間で協力関係を実現した。地域を越え、民間同士及び業界団体が災害時にお互いさまの精神で相互に支援しあうこの仕組みは現在、企業のBCP対策のモデルとなっている。



お互いさまBCP（事業継続）連携ネットワーク